

「元気いっぱい・笑顔いっぱい」



特別支援教育統括コーディネーター 加賀谷 勝

言語的短期記憶が弱い子の九九の指導～

1 言語的（聴覚的）短期記憶が弱い子ども

九九の読み方が、通常の数字の読み方と異なっているため、音声を数字の意味と対応付けることができず、なかなか覚えられない。言語的短期記憶が弱いと、例えば、 $4 \times 7 = 28$ （し・し・ち・に・じゅう・はち）の6個の音を保持することが難しい。

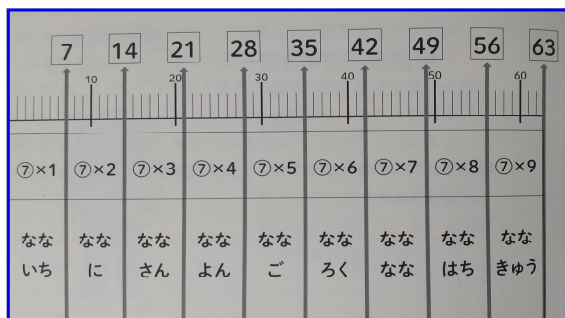
2 有効と思われる九九の学習支援

(1) すでに知っている数の読み方で覚える（し？ よん？ なな？ しち？）

・慣習的な九九の言い方ではなく、すでに知っている数の読み方と一致するように、九九の言い方を変えて覚えるように指導する。

例：「 $4 \times 7 = 28$ 」の場合、「ししちにじゅうはち」ではなく、「よんななにじゅうはち」と読んで覚える。「よん」「なな」の音声は、すでに長期記憶に、それぞれ4、7の意味と関連付けられてまとまりとして蓄えているため、ワーキングメモリの負荷が減る。数字の読みを一貫して覚えるほうが、九九を正確に覚えることができる子どもが多い。（4→よん 7→なな 8→はち 9→きゅう）

(2) 図表を活用して覚える



- ・7の段の答えを数直線上に示す。線の下には目盛、その下の欄には、計算式を書く。子どもによっては、その下に読み方を書く。
- ・式と答えの区切りを強調するために、身体全体をリズムに合わせて揺らし、答えの部分で手拍子を打つ動きを加えると、答えの部分により強調されて覚えやすくなる。
- ・視覚的に量感覚をつかみながら覚える。

(3) 九九の定着のための3ステップ

① 7の段のカードを小さい数から大きい数に並び替える

$7 \times 2 = 14$ $7 \times 4 = 28$ $7 \times 1 = 7$ $7 \times 7 = 49$

② 式と答えだけをバラバラに配置し、マッチングする

7×4 42 28
 7×6 14
 7×2

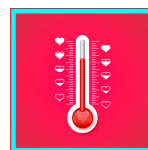


③ 答えをランダムに見せ、7の段の式を口頭で答える

28 ななよん



とれたて直送便



「パワーが貯まるまで」

「今、パワーが80%、もうすぐ100%になります」と、小学2年の子どもが支援員の先生と握手をしながら、心に貯まるエネルギーを数字で伝えます。そして、心が満タンになると席に戻ります。イライラの大きさを数字で表せると、深呼吸をする、ストレッチをする、水を飲む、場所を変える、誰かに助けを求めると、自分で対応できるようになります。